

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

福山市立向丘中学校区	校番 20	福山市立水呑小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	主体性、自己理解、課題発見・解決力
・基礎基本の定着に向けて、学校と家庭が同じように支援ができるよう取組の共有をしてほしい。	・行事や各取組において、生徒が仲間と挑戦したい内容を協議し、全校で実現に向かう姿が見られる。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	人とかかわり合いを大切にし、学ぶ意欲を持ち、自分の生き方を主体的に考える子ども
・「学習とスマホ」についての学校と地域、家庭の情報共有を行うとともに、継続して情報の発信をしてほしい。	・学習に粘り強く取り組む生徒が増えてきた。	中学校区として 統一した取組等	○自校の取組を深く理解し、自主性・主体性を発揮し、「子ども主体の学び」の実現に向けて取り組む。 ○各校の実践や研究についての交流を深め、職員の主体性の向上や意識改革のきっかけとする。 ○お互いの具体的な実践の交流から課題意識、自己研鑽の意欲を持ち、個人的に授業参観、放課後の相談等、教職員が起点となる研修を推進する。

III 自校

学校教育目標		育成する 資質・能力	主体性	課題発見・解決力	自己理解・他者理解
自ら学び 心豊かで たくましい 水呑っ子の育成		めざす こども像	教材に興味を抱き、学び方を自分たちで選択決定している児童	自分の考えと友達のことを比べながら協働的に課題解決をしている児童	自分自身を見つめ直すことで、自分の考えを持ったり、他者の気持ちや考えを理解したりできる児童
現 状		研究	テーマ	じっくり考え 共に考え 自分の言葉で表現し、 確かな力を身に付ける児童の育成 ～Joyful Learning を目指して～	
<児童生徒> ○自己課題の克服に向け、努力し続け、達成感を得る児童が増えてきた。 ○自己肯定感が高まり、挨拶や学ぶ意欲に、良い変化が見られるようになってきた。 ●基礎的な学習内容が定着しておらず、学習理解に困難さを示す児童がいる。 ●ゲームや動画視聴が長く家庭学習や睡眠時間が短くなるなど、基本的な生活習慣の定着に課題がある。			内容等	・国語科・算数科を中心とした授業研究 ・自分の伸びを実感できる学びファイルの活用方法の拡大 ・基礎学力、集中力、自己肯定感の育成をめざすチャレンジタイム	
<授業> ○児童の躰きを把握し、理解を促す手立てを工夫して授業づくりを進めようとする教師の意識が高まった。 ○学んだことの反復・定着のための取り組みの徹底を全職員で意識できるようになった。 ●教科の専門性や系統性を踏まえた深い教材研究が必要である。		めざす授業の姿	【主体性】…児童が、教材に興味を抱き、自分たちで学び方を選択・決定しながら、粘り強く課題解決に向かっている 【協 働】…児童が、自分の考えと友達のことを比べながら協働的に課題解決に向かっている。 【表 現】…児童が自分の考えを持ち、自信をもって多様な方法で友達に伝えるとき、友達の考えを受け入れながら、課題解決に向かっている。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立水呑小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期 経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	「主体的対話 的で深い学 び」を目指す ことを通し て、確かな力 をつける学校 づくり	★	継続	児童が意欲的 に学び、学ん だことの定着 を実感できる 授業づくり	・レディネスチェッ クと躓きを踏まえ た単元計画及び具 体的支援の準備 ・学力定着のための 帯タイム及び家庭 学習での反復学習 の実施及び検証改 善	・標準学力調査（国 算）正答率校内平 均70％以上、 40％未満10％ 以下 ・自分の学習や生活 において、成長し た点を3点以上、 課題を2点以上説 明することができる 児童80％以上									
2	児童が安心し て通え、自分 の居場所を見 つけることが できる学校づ くり			友達の気持ち を理解し、学 級・学年集団 の一員として 共に高まりあ いながら自己 肯定感を高め る児童の育成	・様々な場面を活用 して行う児童への 肯定評価 ・「ここタン」による 児童不安の把握と 課題の早期解決 ・休みがちな児童の 家庭との緊密な連 携	・不登校児童9（昨 年度比-5） ・児童アンケート 「無言掃除によっ て学校がきれい になった」90％ 以上 ・「学校で安心して 過ごすことがで きている」90％ 以上									
2	命や生活習慣 の大切さを実 感し行動化で きる力を育て る学校づくり		継続	主体的に体を 動かすとともに、生活習慣 の改善・定着 に取り組み、 成長を実感で きる児童の育 成	・外遊びを促す日々 の指導や委員会活 動の実施 ・メディア利用時間 の削減と適正な家 庭学習時間の確保 に向けた、保護者啓 発と日常的な学級 指導	・児童アンケート 「生活習慣について 自分の生活課題を もとに設定した重 点目標を守ること ができています」8 0％以上 「ゲームや動画視聴 時間3時間以上」 20％以下									
2	職員が意欲と やりがいを持 ち、元気に児 童と向き合え る学校づくり		継続	業務の精選と 効率化を進 め、児童に係 る事項と向き 合う時間を確 保する。	・ICTや校務支援 システムの有効活 用に向けた研修 ・月1回以上の教材研 究の時間の設定	・職員アンケート 「仕事や教材研 究にやりがいや 面白さを感じて いる。」90％以上 「校務支援システ ムの良さを実感 している。」90％ 以上									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。